

(2025)年度委託

作物名
(はくさい)

対象病害虫名 ハスモンヨトウ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

担当者氏名 日植防 太郎

1. 試験目的 処方変更による防除効果および被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町535 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

対象病害虫発生状況 多→中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:勝春 播種:2025年6月20日 定植:7月11日 栽植距離:畝幅150cm×株間40cm 2条植え(播き)

土性: 壤土 露地栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:8月8日 C乳剤

区制・面積・試験区の構成 1区 5.4㎡(1.5m×3.6m)18株 3連制

1-I	2-I		3-II	
	3-I		1-III	2-III
	1-II	2-II		3-III

1:Aフロアブル(新処方) 2:Aフロアブル(旧処方) 3:無処理区 I II IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2025年8月15日

(処理時の作物のステージ) 展葉期(本葉10~12枚)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、229L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー動力噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22
平均気温(°C)	28.3	28.5	28.7	28.1	29.4	27.7	26.1	25.4	25.4	25.4
降水量(mm)	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	2.5	11.0

観測地点:茨城研究所

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(8月15日)、同1日後(8月16日)、同4日後(8月19日)、同7日後(8月22日)

(調査方法) 薬剤は、各区中央付近10株についての生息虫数を発育ステージ別に調査した。

被害は、薬剤調査時に茎葉の被害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。

+++ : 重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

8月13日に、区あたり3卵塊(日植防茨城飼育個体群、2005年研究所内採取、2018年夏、牛久市野外虫と交配)を接種した。

コメントの追加 [Wユ1]: 学名の表記方法について(例)

2021年度より学名の記載は不要です。

虫害では害虫名および系統等があればこれを記載する。複数種が混発した場合には主体となる種名(評価対象となる種)を記載する。評価対象としない種は記載しない。

例: ハダニ類(ナミハダニ黄緑型、カンザワハダニ)

タバコナジラミ バイオタイプ Q

ネギハモグリバエ バイオタイプ B 主体

アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ主体)

アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ混発)

アザミウマ類*

*複数種発生しているがいずれの成虫も少数等の理由により主体となる種が不明な場合等

コメントの追加 [J2]: 土性の表記について

壤土、砂壤土、砂土など。分からない場合は不明と記述。ポット試験の場合は使用した培土名を記述。

コメントの追加 [J3]: 試験期間中の防除薬剤(殺菌又は殺虫剤)について

使用月日、薬剤名を記載。試験開始前であっても試験に影響があると考えられるものは記述する。使用していない場合は「なし」と記載する。

コメントの追加 [J4]: 試験区の構成

各区の位置関係がわかるように配置図を記載する。

コメントの追加 [J5]: 気象条件について

・試験開始から最終調査日までの平均気温、降水量を表またはグラフで示す。(施設栽培は降水量不要)

・データの引用元を付記する。

コメントの追加 [J6]: 調査月日・調査方法について

薬剤と被害の調査日が異なる場合はそれぞれ記載。

複数処理の場合は最新処理からの日数を記載。

例: 第2回処理3日後、最終処理7日後等

調査月日と方法の項目を分けずにとまとめて可。

被害は、いつ、どの部位について観察したかわかるように記述する。グレードは適宜定めてよい。

コメントの追加 [J7]: 特記事項、放虫、生物農薬の品質チェック等

放虫した場合はここに記載。虫の由来(採集時期、場所)や放虫方法(放虫量や場所、薬剤処理との時間的関係)を記載

天敵農薬を使用した場合は使用前の品質についても記入

(2025)年度委託

作物名
(はくさい)

対象病害虫名 ハスモンヨトウ

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生息虫数												被害 8/16,8/19 8/22				
			散布前			1日後			4日後			7日後							
			8/15			8/16			8/19			8/22							
	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計			
22) Aフロアブル(新処方) 既知化合物 20% Lot. No. ABC-1234	2000倍 散布	I	0	614	0	614	0	17	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	—
		II	0	406	0	406	0	29	0	29	0	0	0	0	0	2	0	2	—
		III	0	503	0	503	0	20	0	20	0	2	0	2	0	0	0	0	—
		計	0	1523	0	1523	0	66	0	66	0	2	0	2	0	2	0	2	—
	(補正密度指数)																	(2.0)	
対照 Aフロアブル(旧処方) 既知化合物 20%	2000倍 散布	I	0	339	0	339	0	45	0	45	0	5	0	5	0	4	0	4	—
		II	0	561	0	561	0	40	0	40	0	14	0	14	0	6	0	6	—
		III	0	1054	0	1054	0	33	0	33	0	5	0	5	0	0	0	0	—
		計	0	1954	0	1954	0	118	0	118	0	24	0	24	0	10	0	10	—
	(補正密度指数)																	(7.7)	
無処理	—	I	0	435	0	435	0	244	0	244	0	57	0	57	0	25	0	25	—
		II	0	400	0	400	0	161	0	161	0	64	0	64	0	28	0	28	—
		III	0	375	0	375	0	267	0	267	0	65	0	65	0	27	0	27	—
		計	0	1210	0	1210	0	672	0	672	0	186	0	186	0	80	0	80	—
	(補正密度指数)																	(100)	

コメントの追加 [J8]: 試験成績について

- 結果を表形式で記載。
- 連制ごとまたは調査地点ごとに結果を表示し、合計値(または平均値。虫数は原則として合計値とする)も表示する。
- 評価するための指数(密度指数、補正密度指数、対無処理比、防除価等)も記載する。
- 被害は調査時期がわかるように表記。
- 2021年度より表中の無処理区の被害記号は記載不要となりました。

紙面のスペースによっては「後述」と記載し、表を末尾に記載しても可。

4. 考察

効果の判定は、散布4、7日後の補正密度指数より行った。

22) Aフロアブル(新処方) 2000倍散布

本処理は無処理と比較してまさる効果を示し、対照薬剤と比較して一定の同等性が認められた。

被害は認められなかった。

コメントの追加 [S9]: 薬剤の実用性ではなく、同等性の

検討が目的のため、考察冒頭の「実用性の判定は散布○日後の…」→「効果の判定は散布○日後の…」とする。(虫害のみ)「判定記号」および「実用性は○○と思われる。」は記載しない。考察文に対照薬剤と比較し、「一定の同等性が認められた。」または「同等性は認められなかった。」を記載する。(共通)